

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	児玉裕之	地域企画課	企画・鳥海 まるっと観光班	福田泰宏	0184-22- 5432	「走る池田修三美術館」事業	由利地域の新たな魅力である池田修三の木版画作品の希少性と由利高原鉄道の発信力という双方の強みを活かし、地域内外における交流人口の拡大を図る。	1,685,117	負担金・ 直営	・由利高原鉄道の車両に池田修三作品をラッピングして通年運行を実施 ・車両内での池田修三特別講座の開催とツアーの実施	県・観光事業者	観光関係者・観光客・旅行エージェン ト・地域住民	平成28年4月1日	観光客をはじめ、由利高原鉄道及び池田修三作品のファン層をターゲットとし、由利高原鉄道に訪れるきっかけを提供したことに加え、車両の写真をSNSで拡散されるなど地域の魅力を発信することができた。また、池田修三特別講座では由利高原鉄道と連携してツアーを実施し、新たなファン層の拡大に繋がった。	新たな観光資源として更に知名度を高めて地域に足を運んでもらう必要があるため、残り1年間となったラッピング車両の運行期間中に、若い世代や沿線の住民等を巻き込んだ池田修三作品の企画展を開催し、更なる交流人口の拡大に努めていく。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日									
総務企画部	児玉裕之	地域企画課	企画・鳥海 まるっと観光班	成田 稔	0184-22- 5432	未来づくり協働プログラムによる広域観光支援事業	未来づくり協働プログラムの計画推進、広域観光の推進と交流人口拡大による地域活性化を図る。(由利地域観光推進機構への負担金)	1,626,400	負担金・ 委託	・未来づくり協働プログラムのカンファレンスを開催 ・テーマ性のある新たな由利地域の魅力発掘 ・隣県旅行会社への訪問セールス ・広域観光の情報発信と隣県への共同プロモーション ・広域観光ガイドブックの作成	由利地域観光 推進機構・県	観光関係者・観光客・旅行エージェン ト・地域住民	平成28年4月1日	未来づくり協働プログラムの整備施設の活用と観光資源を組み合わせた周遊プランを実施するとともに、観光事業者と連携した隣県旅行会社への訪問セールスを引き続き実施するほか、観光客が地域での滞在時間を長くするための切り口を変えた新たな観光素材を提案する取組を進めていく。	
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日									
総務企画部	児玉裕之	地域企画課	企画・鳥海 まるっと観光班	成田 稔	0184-22- 5432	まるっと鳥海活性化推進事業	山形県庄内地方と連携した環鳥海地域(由利本荘市、にかほ市、酒田市、遊佐町)の広域交流の推進と交流人口拡大による地域活性化を図る。(環鳥海地域連携事業実行委員会への負担金)	1,547,818	負担金・ 直営	・環鳥海地域の小学生を対象とした学習交流会の開催 ・環鳥海地域を周遊する食イベント、スタンプラリーの実施 ・環鳥海地域の観光の情報発信と共同プロモーションによる誘客の促進	環鳥海連携事業 実行委員会・ 県	観光関係者・観光客・旅行エージェン ト・地域住民	平成28年4月1日	学習交流会ではジオパーク推進協議会と連携して鳥海山の成り立ちの学習や地域資源の魅力について理解を深め、若年層への普及と相互交流を促進させることができた。また、両地域の周遊性を高める食イベントとスタンプラリーを実施したほか、共同プロモーションにより環鳥海地域への誘客に努めた。	
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日									
総務企画部	児玉裕之	地域企画課	企画・鳥海 まるっと観光班	成田 稔	0184-22- 5432	観光ビジネス展開支援事業	地域の観光事業者のビジネス展開の支援と強化を図るとともに、テーマ別の新たな旅行需要を創出するため、観光事業者と連携して観光資源の検証を行う。	542,954	直営	・観光事業者が行う集客イベントとの連携・実施 ・プロモーション等での観光事業者と連携した観光情報の発信 ・観光資源(酒蔵、地酒)をテーマとした集客イベントの実施	県・観光事業者	観光関係者・観光客・地域住民	平成28年4月1日	菓子店や道の駅連絡会等が行う集客イベントや首都圏での物販イベントにおいて連携・実施した。また、観光資源(酒蔵、地酒)をテーマとした集客イベントでは、冬季間の新たな旅行需要の可能性や地域産品の販売等のビジネス拡大に向けた仕組づくりを検証できた。	
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日									

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び取組方向
総務企画部	児玉裕之	地域企画課	企画・鳥海まるっと観光班	佐藤大作	0184-22-5432	広域マッチング等促進事業	中小企業に対する支援体制を強化するとともに、県際間における商談会等広域的なマッチング支援を実施する。	44,028	直営	・関係機関による実務者連絡会開催による情報交換 ・商工会、山形県等との連携による受発注商談会等の開催	県	管内企業(製造業、建設業)、商工会、山形県、秋田県立大学	平成28年4月1日	・市やハローワーク等関係機関等と実務レベルでの意見交換、情報共有は有意義であり、開催回数が増えたことでタイムリーな情報共有ができた。 ・山形県が開催する商談会に共催の形で参加し、県内、管内企業の参加も多く、アンケートでは継続開催の要望もあることから有意義な商談会である。	今後も関係機関と連携しながら企業支援の取り組みを進め、管内企業の成長を支援して行く。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日									
総務企画部	児玉裕之	地域企画課	企画・鳥海まるっと観光班	佐藤大作	0184-22-5432	ものづくり人材育成支援事業	管内高校生の地元製造業企業への就職の促進及び早期離職の防止を図る。	72,641	直営	・インターンシップを希望する高校生が、地元製造業企業で就業体験を実施。 ・地元製造業の担当者が高校に出向き、企業紹介や社会人の心構え等について講演を行うセミナーを開催。	県	管内企業 管内高校	平成28年4月1日	・インターンシップに参加した高校生の満足度が高く、体験企業への就職に繋がるなど、効果が得られた。 ・製造業の担当者が直接講演することは、業務内容や仕事に対する心構え等を学ぶ良い機会となっている。	高校生が希望する地元製造業企業に就職できるよう、引き続き高校生の就職と企業の人材確保を支援していくとともに、成長分野産業への参入が活発化している地元企業のものづくり現場を高校生が知る機会を提供していく。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日									
農林部	櫻田良弘	農業振興普及課	産地・普及班	大山 実	0184-22-8354	つぶぞろいの地域実需普及によるブランド化支援事業	県オリジナル米新品種「つぶぞろい」のブランド確立のための生産販売体制の構築と知名度向上のためのPRを行う。	148,000	直営	・「つぶぞろい」ブランド推進チームの設置による生産班対策の検討、首都圏米専門店との意見交換会の実施 ・道の駅イベントでの「新米つぶぞろい料理対決」開催によるPR	県、JA、道の駅	生産者、米販売業者、地域住民等	平成28年4月1日	・JA等との生産販売対策の検討を行い、平成29年度の「つぶぞろい」作付面積が拡大につながった。 ・道の駅イベントでのPR活動及び消費者アンケートにより県内外の消費者知名度が向上し、また、消費者の米購買動向等を散ることができた。	・「つぶぞろい」ブランド推進チームを核に、作付、生産、販売拡大に向けた対策の検討を進めていく。
						平成28年7月26日～平成28年11月20日									
農林部	櫻田良弘	農業振興普及課	産地・普及班	児玉浩一	0184-22-8354	園芸メガ団地雇用確保で安定生産支援事業	園芸メガ団地の季節雇用を確保対策の検討と団地雇用者の生産技術の向上を図る。	173,356	直営	・生産技術の優れた農家へ団地雇用者を派遣し、技術習得のための研修を行った。 ・冬期間の雇用確保対策として、先進団地の事例を調査した。	県	生産者	平成28年4月1日	・団地雇用者の生産技術が向上し、農産物「りんどう」の安定生産につながった。 ・団地経営に新しい冬期作目(2品目)を導入・取り組むこととなり、冬場の雇用につながる事が期待されている。	新たに導入した作目の生産技術の向上を図るため、通常の普及活動で指導を加えていく。
						平成28年7月13日～平成29年1月30日									

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び 取組方向
農林部	櫻田良弘	農業振興 普及課	産地・普及 班	岩谷 渡	0184-22- 8354	水田活用型肉用牛生産体 制強化事業	混合飼料(TMR)を活用 した飼料供給体制の確立 と飼料用米を給与した牛 肉の品質確認を行い、肉 用牛飼養農家の収益向上 を図る。	670,481	直営	・混合飼料(TMR)の利用 促進を目的としたセミナー を開催した。 ・飼料用米を給与した牛肉 の品質(アミノ酸等)分析 をし、その特性を調査し た。	県	生産者	平成28年4月1日	・セミナー等の開催によ り、 管内肉用牛飼養農家等の 混合飼料への周知及び活 用への理解が図られた。 ・混合飼料を給与した肉用 牛の肉品質データを収集 することができ、混合飼料 の普及PRデータとして活 用している。	引き続き、肉用牛飼養農家 等への普及にむけたPRを、 JA等関係機関と連携し行っ ていく。
						平成28年8月5日～ 平成29年3月2日							平成29年5月19日		
農林部	櫻田良弘	農業振興 普及課	産地・普及 班	岩谷 渡	0184-22- 8354	次世代の肉用牛経営体育 成支援事業	肉用牛生産に意欲のある 若手飼養農家等の資質 向上対策を図ることによ り、秋田牛のメイン産地と しての地位を確立させる。	450,911	直営	・若手の肉用牛飼育農家 の経営・技術向上を図る ためのセミナー及び研修 会を実施した。	県	生産者	平成28年4月1日	・若手肉用牛飼養農家等 の経営意識の向上が図 られた。	将来の飼養拡大や安定的 な経営ができるよう、引き 続き、JA等関係機関の協 力を得ながら指導を行う。
						平成28年6月2日～ 平成29年1月18日							平成29年5月19日		
農林部	櫻田良弘	農業振興 普及課	企画・振興 班	白山 敦	0184-22- 7551	地域特産品連携加工チャ レンジ事業	地域特産加工品・有望 試作品(6品目)の商品化 に向けた検討を行った。	167,074	直営	・地域特産加工品・有望試 作品(3品目)の商品化 に向け、加工技術アドバ イザーによる指導や販 路 確保商談会等でのPRを 行った。	県	生産者、 加工業者 等	平成28年4月1日	・3試作品のブラッシュア ップを行い、新商品にまで 仕上げた。また、1商品 が、東京首都圏スーパー へ提供されている。	開発した商品にあつては、 引き続き、消費者ニーズ に対応した商品とすべく、 専門家からの意見聴取を 行うとともに、新たな販路 先を確保するために取り 組んでいく。
						平成28年8月29日～ 平成29年2月28日							平成29年5月19日		